



第129号

発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会長
森山明治
編集人 会報編集委員
勝山一男
印刷所 須坂新聞社

第十回研究発表会・第九回女教師研究大会

特集

十二月十日(土)須坂小学校視聴覚室において、会員百十余名参加のもとに、第十回研究発表会が開催され、本年度は三名の先生により発表がなされた。十一月十九日(土)には女子会員等百余名の参加によって、同じ須坂小学校視聴覚室を会場に多くの会員の展示作品のなか、第九回女教師研究大会が開催された。

継続実践の研究発表

第十回研究発表会は初冬ながら雲一つない小春日和の土曜日の午後、森山会長はじめ多くの会員が出席する中で開催された。この研究発表会は会員の普段の研究成果を発表することを通して、自己練習に努め、会員相互の資質の向上に寄与するべく役割を担っている。今年度は発表者の研究をより深く理解できるよう、一人の持ち時間を昨年より十分長くし、三十分として進められた。発表者は「果実酒と薬酒」吉村賢三先生(豊丘小)、「日本人学校に学ぶ」川上三雄先生(相森中)、「須坂市の職人」山岸信之先生(栗ヶ丘小)の三人で、スライドや実物、プリントを効果的に利用しつつ、貴重で興味深い発表がなされた。森山会長はいさつの中で発表内容に触れながら、上高井の先人のフロンティア精神を紹介し「求めていくことに貪欲でありたい」と、自分自身の研修の重要さを述べ、しめくくりとした。第九回女教師研究大会は里に初めて雪が降った十一月十九日(土)の午後、「人間性豊かな児童、生徒を育てるために、私たちはどのようにした

日本人学校に勤務して

川上三雄

昭和六十年年度から六十二年度までの三年間、中近東のカタール国ドーハ市にある日本人学校に勤務しました。その時のことを発表します。

一、国のあらまし

アラビア半島の中ほどにあるカタールは岐阜県ほどの広さで、砂漠気候のため真夏には五十度C以上にもなる炎熱の地である。夏期には雨がほとんど降らず冬期に数回降るだけである。ガソリンより飲み水の方が高く、人々は水を大切に扱う。戒律の厳しいイスラム教が社会の隅々まで支配して日本人などにとって不便な時がある。石油の富のおかげで医療は外国人にも無料など超福祉国家であり、国家の近代化に努力している。独立十七年目の若い国である。

二、日本人学校の概要及び教育活動について

在留邦人の減少により小規模校化している。個別指導の充実、基礎学力の定着を図っている。また現地理解教育の基本として英語(英会話)の習得を重視している。夏期は水泳、冬期はなわとびや砂漠マラソンなどで体力向上を目指した。現地理解教育として、発電所、空港、消防署、郵便局、博物館、スーク(市場)、魚市場、王宮、モスク、古城、

近代ホテルなどの諸施設を見学した。また、砂漠キャンプや砂丘への遠足、化石採り遠足等による国土理解学習を進めた。国際交流教育として、アラビア人学校、イギリス人学校、インド人学校、ノルウェー人学校等とスポーツや音楽などを通して交流した。国土や風俗、生活などを見つめ、作文にしたりカタールかるたを作成しその国に親しんだ。

(例)太陽が休む間もなく光っている (例)親らくだ子らくだ連れてどこへ行く (例)走っても砂ばくが続くよどこまでも

③コーランの祈りがびびくよモスクから など。

職員研修として、社会科副読本の完成や現地スライドの作

成などを試みた。

三、外国人学校における教育

・アラビア人学校の例

イスラム教の伝統を重んじていて男女別学である。民族の歴史、語学、科学、体育に力を入れた教育のようである。

・イギリス人学校

設備が良く創造力や自主性の育成、情操教育に力点が置かれている。規律の中にも余裕のある教育課程を組んでいる。

・インド人学校

民族の歴史と伝統を大切に、身分制度の名残を感じさせる。語学や道徳に力を入れている。

・ノルウェー人学校

自主性や創造力を重んじ、個の確立を図ったり、体育や芸術などを重要視している。

四、感想その他

日本人学校では各県からの混成メンバーのため、指導方法など意識の統一を図ることが難しいと感じた。教育はどの国にとっても重要なことであり、各国とも力を入れてい

る。特に民族の歴史や伝統に対する教育、語学や体育、芸術、道徳教育などがそうである。また、教師は権限があり、指導に対して児童生徒は真剣に学ぼうとしている。インターナショナルスクールでは多くの国籍の生徒が机を並べて学んでいるなど、心の国際化は自然となされているように思われた。また、自主性や責任感、表現力などの能力育成に努めているようである。三年間の経験を大切に、今後

に生かしたい。

(相森中)



須高地区の職人たち

山岸 信之

現在地歴同好会では、「須高地区の職人たち」について二年間の調査計画をたて、三十五職種を会員全員で分担しとりくみ中である。

職人の技術伝承の姿が急速に消滅しつつあり、語りつぐことが不可能になる危惧があること。また、職人の生き様や技術伝承法は現在の世の中にあつて、特に学ぶべきことが数多く考えられること。以上の点から同好会として調査の必然性を感じ、野かじ屋さんに焦点をあてて記してみる。

北横町の宮崎通りで農具や打ち切物を作っているかじ職塚原初治さんは、今年七十四才。納豆や丸干し売りをしながら須坂尋常高等小学校を卒業し、同時に市内の柘植鉄工所へ十一年間奉公に行かれた。「亡くなった父に、手に職持てば食っていける。文字を覚えなくても、仕事を覚えろ。」と

していただけると短絡的に、一人よがりの早合点をした。

「先生方大勢でわしらのことを調べよとめた後で子どもに話しても、こんな苦労でもうけの少ないかじ屋になろうとする子はいないかい。」さらに、「何十年とこの道一筋にきたわしをほめてくれた人は、今までに県議員はじめ、どんなにえらい人でも一人もいなかった。本人の心底からじみでてる言葉を一方的に聞かされ、私は一言もなかった。二回めの訪問も承知してただけで、三回めの盆明けの十七日に、ようやく話をしていただけだ。私は、人とのつき合ひの奥深さ、すばらしさ、礼をつくすことの大切さ等を身をもって体験できたことに感謝している。

現在草かき・鎌・鎌・鉈・包丁などの農具一式を注文にに応じて作っている。二年前までは金物屋へ製品を卸していたが、最近はもうけが合わず、全くやめたそうだ。「お得意さんはこの辺みんなさ。そこで売ってるのは少ししか使ひもんになんねえと言つて、家に買いに来る人はいっぱいだ。」と、力強く塚原さんは語る。機械化製品の普及のため、昭和五十年頃を境に薪

わりや桑つみ・押し鎌・マンガ等は衰退したという。製糸業は、かつて当地方を養蚕業地域に発展させた原動力であり、その屋台骨の一角を塚原さんたちが担っていた。一つの産業が発展するには、陰で支える多くの方がいることを知った。

後継者育成問題にふれると、昭和二十七、八年は見習いが四、五人いたが、みんな逃げた。長期間の修業のわりに根気強さを必要とされ、もうけが少ないこの職種に好んで入門する時代は終わろうとしていたようである。現在、塚原さんの後継者はいない。昔は毎年十二月八日にお祭りをして、一月二日の仕事始めには、必ず何か一つ仕上げるようになっていたという。神仏を信じ、今も米子不動の

お札を仕事場にはって縁起をかついでいる。同業者は今も市内三軒に減り、同業組合も五軒に減ったという。月々千五百円積み立てて温泉へ行き、親睦や対策をねるそうだ。「他にまねのできないことは焼きだな。職人一人ひとりの作品のできばえは焼きさだいだ。長年の自分の経験からくる勘を信じるだけだよ。地金は柔らかく、鋼は硬く仕上げないと切れ味は良くならん。毎日の仕事そのものが研究だ。焼きに入れる前の鋼の温度がまたたいへん。八百度のこの温度も、自分の勘でしかないよ。勘で作るから、同じ物は一つとしてできねえ。わしは使う者が手入れさえしてくれば、十年でも使えるように作ってる。」と、謙虚な中に作品への愛情と自信をも

お札を仕事場にはって縁起をかついでいる。同業者は今も市内三軒に減り、同業組合も五軒に減ったという。月々千五百円積み立てて温泉へ行き、親睦や対策をねるそうだ。「他にまねのできないことは焼きだな。職人一人ひとりの作品のできばえは焼きさだいだ。長年の自分の経験からくる勘を信じるだけだよ。地金は柔らかく、鋼は硬く仕上げないと切れ味は良くならん。毎日の仕事そのものが研究だ。焼きに入れる前の鋼の温度がまたたいへん。八百度のこの温度も、自分の勘でしかないよ。勘で作るから、同じ物は一つとしてできねえ。わしは使う者が手入れさえしてくれば、十年でも使えるように作ってる。」と、謙虚な中に作品への愛情と自信をも

今年初めてこの研究発表会に参加しました。そこでその発表についての感想を述べようと思ひます。

中村 昌成

発表は、次の「日本人学校に勤務して」でした。私も機会あれば日本人学校で勤務したいと思つていたので、非常に興味深く拝聴しました。研究発表によって、なじみのなかったカテゴリーが少し身近な存在になったような気がします。日本人学校では、意識の統一が難しいとありましたが、少し意外に思ひました。最後に「須高地区の職人たち」で、職人が抱えている課題の発表がありました。どの発表も充実していました。来年以降も今回以上の素晴らしい発表を期待しています。(墨坂中)

尾山 康代

小春日和の土曜の午後を充実した思いで過ごしていた。来たというあいさつの言葉通り、会を終えて、心に重く響くものがありました。「須高地区の職人たち」と題して発表された話のことです。野かじ職を何十年と続けておられる「塚原さん」の生きざまと、塚原さんを何度も訪れ、話してくださった発表者の先生の姿に、とても大切なものを感じました。

毎日が勉強だ。作品は一つとして同じものはない。一つ一つが味を持っている。機械化の波、後継者問題など、塚原さんを取りまく状況は、なみなみならぬものです。その中で、「家族を食わせていけない職人」とはいえない。という言葉から、生活は安易なものでもなく、真剣で本気なものだと思ひました。私自身も学校での子供達の生活も、どうだろうか。発表なさった先生方の姿に本気を感じ、私自身の本気を追求していきたいと思ひながら、会場をあとにしました。(日野小)

研究発表会に参加して



果実酒には、アルコール度の高い35度の焼酎を用いるのが最適で保存性もよい。

容器類は、広口瓶、酒などの空瓶を用いると経済的ですが、果実酒は、温度変化の少ない、日のあたらない冷暗所に保存するのが最適です。

合成樹脂製の容器類を使用すると、熱や化学作用によって、悪臭やすっぱい味が出て飲めなくなる。また、実を長く入れておくと、匂も悪くなり油が浮いたようになりません。

糖類は、酸味や渋味をやわらげ、浸透圧が強くなるので、味にまろみとうま味が出る。糖類を入れすぎると、果実酒本来の味が失われる。

コケモモ酒(ツツジ科) 九月中旬後、紅熟した実を採取し、1.8ℓの焼酎の700gの実を入れ、六か月以上かけて熟成する。

酸味と渋味のきいた紅色の美しいコケモモ酒ができ、女性向きである。 鎮静、安眠、強壮、疲労回復、神経痛、リユーマチに効能があると言われる。

なお、取り出した実を、なべに入れて熱し火をつけて、アルコール分をとばし、砂糖を入れて焼くと、かびないすばらしいジャムができる。

ナツハゼ酒(ツツジ科) 九月中旬後、黒く熟した実600gを1.8ℓの焼酎に入れ、四か月以上熟成させると、甘ずっぱい、さわやかなリキユー

ルが楽しめます。 紅色な果実酒は、健胃、整腸、安眠、食欲増進、鎮静、

強壮、体力増進に効能がある。クロマメノキ酒(ツツジ科) 九月中旬後、藍黒色に熟した実600gを、焼酎1.8ℓの中に入れ六か月以上熟成すると、濃い紅色な味のない果実酒ができる。匂いにや、くせがある。似た酒では、スノキ酒、クロウスゴ酒があり、味、匂もよく楽しみな果実酒です。

疲労回復、強壮、増血、補精に効能がある。 ガンコウラン酒(ガンコウラン科) 九月中旬後、黒く熟した実300gを、焼酎1.8ℓに入れ、三か月以上熟成させると、濃い紅色のガンコウラン酒ができる。味、匂もよく果実酒群の中では抜群と評して飲んでいる。

果実酒・薬酒の効能

三賢村 吉

高山の靈氣の中で育った実には、活力、生命力を秘めているのか、万病に効能があると言われている。 サルナシ酒(サルナシ科) 九月中旬後、緑色に熟した実を採取し、焼酎1.8ℓに600g入れ、六か月以上熟成させると、黄金色で匂のよい最高の果実酒ができる。

疲労回復、強精、強壮、不眠症、などに効能がある。 マルメロ酒(バラ科) 黄熟した実1kgを、焼酎1.8ℓの中に入れ、六か月熟成す

ると、黄金色で匂のよいマルメロ酒ができ、味もよい。 疲労回復、風邪、冷え症、鎮咳に効能があり、声もよくなると言われている。 ザクロ酒(ザクロ科) 完熟した実500gを、焼酎1.8ℓに入れ、六か月以上熟成すると、琥珀色で味のよい酒が楽しめる。

健胃、整腸、疲労回復、下熱作用、条虫駆除、下痢止めなどに効能がある。 クサボケ酒(バラ科) 黄色前の実600gを、焼酎1.8ℓに入れ、六か月以上熟成すると、琥珀色の美酒ができる。 貧血、滋養強壮、神経痛、リユーマチ、筋肉痛、冷え症に効能がある。

マタタビ酒(マタタビ科) 虫こぶになった実600gを、焼酎1.8ℓに入れ、六か月以上熟成すると、琥珀色の酒ができる。 ナナカマド酒(バラ科) 赤熟した実600gを、焼酎1.8ℓに入れ六か月以上熟成すると、琥珀色の酒ができる。

果実酒、薬酒の飲み方は、山の水で水割り、炭酸割りで飲むのが最高です。 参考文獻 果実の作り方 中村純介著 新皇出版 果実酒・薬酒108種小実著 有紀書房 食べられる木の実草の実 信濃毎日新聞社 薬草カライ図鑑 伊沢男著 主婦の友社 信州薬草図録 信濃毎日新聞社 山野草カライ図録 主婦の友社 (豊丘小)

女教師研究大会

委員会実践報告

「子どもの理解をとおして」

西沢 朋子

女教師委員会では昨年度にひきつづき「人間性豊かな児童・生徒を育てるために、私たちはどのようにしたらよいか」というテーマのもとに、子どもに寄りそい心を理解していきたくと考えた。委員7名、気にかかると「おやっ」と思った行為やつぶやき、日記等を記録し、その子の心の動きをとらえ支え励ます方向で指導するようにした。また夏休みには、市教育相談員小林先生に具体的事例を通してご指導をいただき実践を積み重ねてきた。

○事例一 T男(小三男子)は、かつてなりやすく友達の気持ちを考えて自己中心的な言動が多く、そのため「意地悪」「命令する」と考えられ友達から嫌われる傾向がみえた。ズボンがぬれてしまった友達に進んでズボンをかしてあげるなどT男のよさをみとり、彼のよい面やさしい面を学校の中で取り上げ認めていった。またグループ活動や協力して行う活動を多くとり入れていった。このような指導を重ねた結果、感情をコントロールできたり友達からさそわれることもふえた。そして友達との

うになってきた。 この事例を通し何とかして子どもの心の奥にあるものをみとって指導の手だてをみつけていきたいと考えた。 ○研究のまとめ ・よく見て「おやっ」と思った行為やつぶやきを記録にとり、行動の裏にあるその子の気持ちや背景をつかむことが大切だ。 ・記録をとり続ける中から、その子のよさを改めて知り、教師自身のその子への見方を変えることができる。 ・そのよさをひき出し、その子に自信をつけさせると共にまわりの子へも知らせたり気づかせることにより、まわりの子どもたちの見方・考え方も変えることができる。 ・担任とその子との信頼関係を築くためにそれぞれ工夫してきたが、子どもの心に寄りそって暖かく包み込むことにより心を開いて本音で語り合えるようになってきた。

(井上小)



「同和推進教員」となって

浅井雅子

「先生、桜の花を取って行くね」と三十分、今来た道を走り戻って校庭の桜を生けて発会式の準備をしてくれたT男。夜更けになってしまった家庭訪問「先生足もとに気をつけてください」と懐中電灯を照らしてくださったじいちゃん。

「犬にはえられても……」PTA総会に校長先生から紹介されて、多くの方々の温かな激励と厚い期待のもとに責任の重さを肩に具体的な仕事の内容が見えてこない不安の中を歩き始めました。

それは「孤独」になることからの出発でした。学習が始まり先生方が教室に行かれた職員室。教室のない学校生活「徹底的に孤独になれ、孤独の中からこそ何をなすべきかが見えてくる」と言われた主事の言葉をたよりにうろうろしていた自分が思い出されま

す。この「孤独」こそ「被差別者の立場に立ちまるとは」を追体験する出会いだったと思えます。そして、解放子ども会の学習が進み、昼食や夕食をいたさながら徐々に差別のひどきをお聞きしていく中で、自分が今までおこなってきた「同和教育」とは何だったのか、「差別者であり、差別されることを教えていた自分

ないに等しかったのです。同和教育の懇談会の時も「何故、地区の方が欠席するのか」との声を聞きます。「でもね先生、本当は行きたいのです。私たちがまだ説明ができるほど勉強をしていないので困ってしまうのです。先生も助けてくださいませんか」と、又、「私一人しかいない（東京に嫁ぐと偽り）花嫁写真ですけど持っているので幸せです。隣の奥さんは写真さえない。もし娘が見せてといったらどうしよう……」このような親のせつない思いや願いを、細仕事を終えて解放運動に出かける母を気遣って済まなそうに帽子のつくろいを頼む子のやさしさ

女教師研究大会に参加して

北村育代

今年から上高井にお世話になり、始めて女教師研究大会に参加させていただきました。「人間性豊かな児童、生徒を育てるために」という研究テーマに一貫した具体的な内容で、興味深く聞かせていただきました。

井上小の浅井雅子先生のお話しをお聞きして、心に残るものがありました。まず浅井先生が壇上でお話しされた時、とてもエネルギーギッシュな、人の心をひきつける方だと感じました。同和教育推進教員というお仕事に情熱をもって精力的に取り組んでおられるためなのだ、日頃の自分は先生のような生き生きとした姿で、生徒の前に立っていたのだらうかと反省させられました。

この大会に参加させていただいてよかったという思いで会場を後にしました。(小布施中)

郷土の文化財 ⑧1

矢崎諏訪大明神

(高山村榎形)

霊沼神龍躍

瑞雲澤鶴翔

高井鴻山が揮毫した大幟は全部で二十四点余が伝えられている。明治十一年には五點揮毫されたといわれ、この幟もその一つ、鴻山七十三歳の時に揮毫されたといわれる。二本で一對になっているこの幟は、長さ十・五メートル、幅一・一五メートルもある大きなものである。言葉は「霊淵神龍躍」「瑞雲鶴翔」と記されており、

編集後記

先生方、本当にありがとうございました。よいお年をお迎え下さい。(田中・平野)

「第十回研究発表会」そして「第九回女教師研究会」の特集として、二一九号をお届けすることができました。二学期末の多忙の中、快く原稿をお寄せいただいた、発表者の先生、そして参会者の

